

金沢市の子ども会と交流

■6月27日～28日 小原など



金沢市・勝山市子ども会の子もたち27人が、北谷町小原などで交流を深めました。羽釜でご飯を炊いたり、ドラム缶のお風呂に入ったりそば打ちをしたりと盛りだくさんの体験を行いました。

災害に備える！

■6月28日 ゆめおーれ勝山、荒土町、平泉寺町



勝山市総合防災訓練が市内3カ所の会場を中心に行われました。住民による避難訓練、災害ボランティアセンターの設置・運営訓練、大蓮寺川の氾濫を想定した水防訓練などが行われ、741人の市民が参加されました。

動植物の宝庫を観察

■7月5日 池ヶ原湿原



初夏の池ヶ原湿原の自然観察会が開催されました。ミズドリやモウセンゴケ、モリアオガエルなど沢山の動植物に参加者たちは目を輝かせていました。その後、大矢谷の巨大大岩を観察して、自然の不思議を感じ取っていました。

HOT話題

市民のチカラで駆除

■6月6日 法恩寺山有料道路



法恩寺山有料道路に繁茂している特定外来生物のオオキンケイギクを、呼びかけに応じていただいた市民約50人が1時間ほどの作業で約1.5kmの範囲のオオキンケイギクを駆除しました。

災害時の燃料供給に強い味方

■6月16日 市役所



嶺北石油組合と勝山市が災害時などにおける石油燃料の供給に関する協定を結びました。災害時などにおける緊急車両などへの燃料供給や被災者の一時休憩所としてガソリンスタンドを提供していただくことなどを盛り込んだ協定となっています。

炭焼き体験

■6月26日 荒土町細野



荒土小学校の4年生児童10人が炭の原木割りや炭窯への窯入れを行いました。荒土町ふるさとづくり協議会のメンバーの方に仕事を教えてもらいながら、手際よくこなしていました。

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク

勝山では、多くの農作物が栽培されています。農作物は、その地域の地形・地質と切っても切れない関係にあります。作物が栽培される土壌は、河川の上流から運ばれてきた土砂や地上にある岩石や地層、火山灰などが風化して土になったものです。その土壌に適した農作物が特産品となっている場合があります。



●クロボク土壌

市内には、大きく分けて10種類以上の土壌が分布しています。荒土、野向、村岡、平泉寺の地域には、「クロボク」と呼ばれる火山灰が起源の黒色土壌が広がっています。クロボクは、酸性土壌で水はけが良く、養分を蓄えないという特徴を持ちますが、その土壌の特徴を踏まえ、稲作に適するように農家が土づくり（土壌改良）を行いながら栽培が行われています。特産のそばや野向町の「えこま」は、土壌を選ばず、あまり養分を必要としない作物であるため、この土壌とマッチした特産作物と言えます。

—第12回— 地形・地質の多様性から見た勝山の作物栽培の多様性



勝山水菜の雪中栽培（北市）

●段丘礫層中を流れる伏流水と勝山水菜
北市の河岸段丘2段目の段丘面にある圃場では、冬期間、特産の勝山水菜の雪中栽培が盛んに行われています。圃場の上の段の面から浅く礫中を流れる地下水が雪中栽培に利用されています。

このように、地形・地質の多様性から生まれた土壌分布の多様性は、勝山で作物栽培の多様性を育み、勝山の基幹産業である農業を盛んにさせてきたと言えます。今回紹介した作物以外にも、土壌との関係を示せる作物が多くあると思います。まずは作物の特徴を考え、土壌のことや土壌と大地の関係を考えるのも、おもしろいのではないかと思います。

問 ジオパークまちづくり課（市役所2階） ☎88・8126



Popoki Column



勝山市国際交流員 サトウ・ナンシー



アメリカンバーベキューの様子

国際交流員は「国際交流」を行うことが主な仕事です。「国際交流」と言うと外国語の勉強が最初に思い浮かびますが、もう一つ重要なことが「異文化理解」（自国文化以外を知り、理解すること）です。市民の皆さんに外国文化を楽しく経験し学んでもらうことや、外国人に勝山・福井・日本を知ってもらいたいことが目標です。

よく自己紹介の際に「国際交流員はどんな仕事をするの？」や「英語の先生なのね」と言われることがあるので、今回は私がどのような仕事をしているのかを紹介したいと思います。
国際交流員は「国際交流」を行うことが主な仕事です。「国際交流」と言うと外国語の勉強が最初に思い浮かびますが、もう一つ重要なことが「異文化理解」（自国文化以外を知り、理解すること）です。市民の皆さんに外国文化を楽しく経験し学んでもらうことや、外国人に勝山・福井・日本を知ってもらいたいことが目標です。

お互いに意見を交換して「草の根の国際化」を目指す



イースターエッグ作りの様子

アメリカ・ハワイの文化を市民の皆さんに教えるこれらの行事は、私が勝山の人や文化を学ぶ機会でもあります。普通に会話をし、お互いの文化や言語について意見を交換することで「草の根の国際化」言わば「国際交流」ができると思っています。

今年度はこれまでに、イースター（4月）、アメリカンバーベキュー（7月）を行いました。4月の国際交流サロンでは、欧米で有名な祝日であり、春の始まりを祝うイースターを紹介しました。勝山在住の園児と小学生を対象に、中央公園でお菓子が入ったプラスチックの卵探しや、卵に色を塗り模様を描くイースターエッグ作りをしました。子どもたちの作品は、どれもとても感動しました。

問 未来創造課（市役所2階） ☎88・1115